

「せとうち島旅フェス 2025 ～アートと学びの島々～」の開催について

本州四国連絡高速道路株式会社

本州四国連絡高速道路株式会社（以下、JB 本四高速）は、2025 年 5 月 17 日（土）及び 5 月 18 日（日）に、E30 瀬戸中央自動車道 与島 PA（香川県坂出市）をメイン会場とする、「せとうち島旅フェス 2025 ～アートと学びの島々～」を開催しました。

同フェスのコンセプトは、「与島を中心に瀬戸内の島々との出会いを皆様にお届けし、交流の場、楽しみ、そして学びの場となるよう、多様なパートナーと連携したイベントを開催すること」です。2022 年に第 1 回を開催して以来、今年で第 4 回目を迎えました。当初は、瀬戸内地域の皆様が与島に集い、それぞれの地域の文化や魅力を発表する場としてスタートしました。回を重ねるにつれ、次第に輪が広がり、与島だけでなく塩飽諸島の本島（香川県丸亀市）・讃岐広島（香川県丸亀市）・志々島（香川県三豊市）など、島へ島へと舞台が広がっていきました。今では、地域と共に創り上げるイベントとして、新たなフェーズへ発展してきたところです。

今年の「せとうち島旅フェス 2025」のテーマは、「アートと学びの島々」です。

このテーマには、2つの大きな柱があります。1つめのテーマ「アート」については、JB 本四高速が取り組む「せとうち美術館ネットワーク」や、瀬戸内の島々を舞台に開催されている「瀬戸内国際芸術祭 2025」を中心に、瀬戸内地域がアートでますます盛り上がりを見せる中で、島旅フェスでも同ネットワークを活かし、アートによる地域活性化に貢献することを目指して設定しました。

2つ目のテーマ「学び」については、「せとうちマルシェ」でのサステナビリティ体験や、サテライト会場（本島・讃岐広島）における体験を通じて、瀬戸内について知っていただく機会を提供し、さらに今回は、瀬戸内の離島の暮らしを支える「はたらく船」の展示会を開催し、離島の暮らしとそれを支える仕事を知っていただくことを目指して設定しました。

以下、当日のコンテンツをご紹介します。

【島旅放送局】

各イベントや塩飽諸島の島々、出店自治体などの魅力発信・情報発信を行うとともに、会場全体の一体感を高めるため、与島 PA に特設の放送局ブースを設置しました。

今回は、香川県のラジオ放送局の協力のもと、メインパーソナリティを迎えてラジオ番組の公開収録が行われました。イベントのテーマである「アートと学びの島々」をコンセプトに、国・自治体・民間



事業者の方をはじめ、瀬戸内にゆかりある芸術家や建築家など、多彩なゲストを迎えて、瀬戸内地域の「アート」と「学び」について、興味深いトークが展開されました。途中、メイン会場内やサテライト会場からの中継も行われ、現地のにぎわいがリアルタイムで伝えられ、会場のにぎわいを創出しました。

【せとうちマルシェ】

与島 PA にて、瀬戸内の島々やサステナビリティに関する体験・PR ブースをメインに、地元の産品に特化した飲食・物販ブースや観光 PR ブースが集まる、マルシェイベントを開催しました。2 日間で計 24 店舗の皆様にご出店いただき、与島パーキングエリアは多くのお客様で賑わいました。

テーマである「アート」に関連して、「せとうち美術館ネットワーク」の PR ブースや、同ネットワークに加盟している瀬戸内地域の美術館もマルシェに出店し、塗り絵などのワークショップや展示を通して瀬戸内地域の文化芸術を PR しました。

また、「学び」に関連して、讃岐広島 茂浦地区の伝統行事「百々手（ももて）祭り」の PR ブースを設置しました。讃岐広島は、JB 本四高速が、瀬戸内地域の島しょ部における人口減少などの課題解決や SDGs 啓発を目的に実施している環境教育プログラム「せとうち島塾」の開催地でもあります。

「百々手祭り」は茂浦地区の塩釜神社で行われる、五穀豊穡や厄払い、祈願成就などを願う神事です。袴（かみしも）を着た島民たちが早朝に海岸で弓矢を清め、塩釜神社に参拝した後、境内に設けられた的を目標けて、願いを声に出しながら矢を放ちます。今回は、実際の神事で使用する弓矢や袴、古文書などをお借りし、現地の雰囲気そのままに、与島 PA での展示を行いました。



【島旅クルーズ】

与島 PA 発着の、当日限定クルーズを運航しました。クルーズの行先は、1 日目が讃岐広島及び志々島、2 日目が瀬戸大橋の真下を周遊する「瀬戸大橋くぐりクルーズ」及び本島、とバリエーション豊かにご用意しました。

また、現地の方々のご協力により、1 日目は讃岐広島、2 日目は本島を「サテライト会場」として、島ならではのグルメや体験を楽しめるイベントも同時開催しました。

2 日目の瀬戸大橋くぐりクルーズは、悪天候により中止となってしまいましたが、その他のクルーズは多くのお客様に乗船いただき、にぎわいを創出しました。

ここからは、各サテライト会場でのイベントをご紹介します。

1 日目の讃岐広島サテライト会場では、江戸時代に廻船問屋として繁栄した尾上家の邸宅「尾上邸」を

会場に、竹細工体験を開催しました。参加者は島民からレクチャーを受けながら、竹の割り箸をやすりがけし、オリジナルの箸を製作されていました。講師を務めた島民の方は、竹の廃材を使用して割り箸や靴べらなどさまざまな道具を製作されている方で、製品に込める思いや島の文化などを、参加者に話されていました。

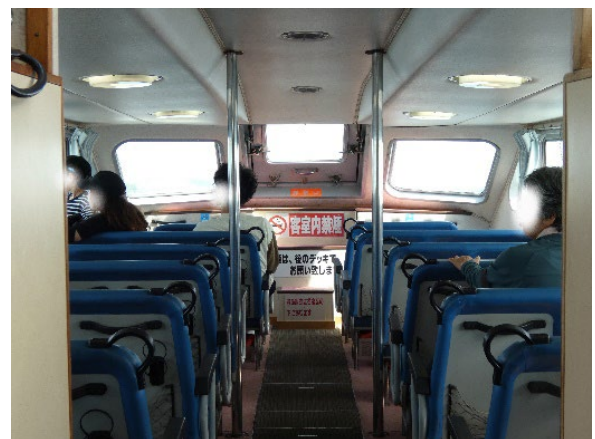
クルーズが発着する江の浦港では、2024年にオープンした、島に移住した青年が営むピザ店にてお客様を「食」でおもてなしました。島で獲れたイノシシ肉を使ったオリジナルピザなど、地元の食材を生かしたメニューを提供し、訪れる人々に島の魅力を味わっていただきました。

2日目の本島サテライト会場では、クルーズが発着した本島泊港にて、「本島さかな部」主催のイベントが開催されました。本島さかな部は、本島に暮らす20代が中心となり、魚の魅力・魚食文化・島の魅力などを発信されている島おこし団体です。

当日は、サワラの解体ショーや縁日が開催され、小さな島に多くの方々が訪れ、会場は大盛況となりました。

また、本島のサテライト会場からは島旅放送局の中継が行われ、イベントの熱気が与島のメイン会場へライブで届けられました。

さらに、本島泊港から少し離れた笠島地区では、地元ガイドによる歴史や建物を学ぶツアーが実施されました。笠島地区は、格子構えに虫籠窓を設けた町屋形式の住宅が並ぶ集落で、国の重要伝統的建造物群保存地区にも指定されています。ツアー参加者は、島の伝統的な街並みを興味深く見学されていました。



【インフラツアー】

普段は開放していない、瀬戸大橋のケーブルを支える巨大な橋台「アンカレイジ」の内部に入ることができる、「アンカレイジツアー」を実施しました。JB 本四高速の社員がお客様を案内し、橋の構造や歴史について説明しました。

また、同時に「瀬戸大橋スカイツアー」も開催しました。このツアーでは、瀬戸大橋の建設技術や歴史などを楽しく説明しながら、普段は立ち入ることができない JR 瀬戸大橋線 の車輌を間近で見られる管理用通路や、海面から 175m の塔頂へご案内しました。

迫力ある景観と貴重な体験を通じて、瀬戸大橋の魅力を存分に感じていただきました。



【こども図書館船 ほんのもり号】

「こども図書館船 ほんのもり号」は、直島美術館などを設計した世界的建築家・安藤忠雄氏より香川県に寄贈された、小型船舶を改装した移動図書館です。船内は図書室のように本が並び、県内の離島などを巡行しながら、本土や島の子どもたちに読書や体験活動の機会を提供しています。この事業は、子どもたちの感受性や郷土愛を育むとともに、瀬戸内の島々と本土との交流を活性化することを目的としています。

この「ほんのもり号」は、島旅フェス 2 日目に与島港に寄港しました。当日は、多くの親子連れが与島港を訪れ、海の上に浮かぶ図書館に興味津々の様子で、乗船を楽しんでおられました。

また、「ほんのもり号」が運んできた本を手にとり島内を散策するガイド付きツアーや、坂出市の移動図書館バスによるイベントも実施され、与島港周辺が読書体験に包まれた 1 日となりました。



【はたらく船展】

来場者に離島の暮らしや、それを支える仕事を学んでいただくことを目的に、与島港にて船舶の見学会を開催しました。

1日目は、高松海上保安部巡視船「みねぐも」及び香川県漁業指導船「ことぶき」が、2日目は香川県済生会病院「済生丸」が寄港し、自由に船内を見学していただきました。

普段はなかなか目にする機会がない船に、来場者は大きな関心を寄せられていました。それぞれの船が担う海上での役割や仕事について、各船舶の職員により説明が行われました。様々な船舶が一堂に集まるという貴重な機会に、多くのお客様が興味を持たれ、足を運んでいただきました。



2日間を通して、多くのお客様にご来場いただき、「せとうち島旅フェス 2025」を無事に終えることができました。

また、開催にあたり、多大なご協力を賜った塩飽諸島の皆様をはじめ、国、自治体・民間の事業者様にも、深く御礼申し上げます。

今後も、瀬戸内の魅力を広く発信し、地域のつながりと学びの場を育ててまいります。